

# 人間主義と形而上学

## ——人間性をめぐるハイデガーとレヴィナスの対決——

小手川正二郎（國學院大学）

### 【発表要旨】

ヒューマニズム、あるいは人間中心主義への批判は、途切れることなく続いている。例えば、ある属性をもつものを「人間」として認めることは、その反面で、当の属性をもたないものを「人間」という集団から排除することを含んでおり、人間中心主義は「人間」として認められない集団（重度障害者、動物、自然）の「非人間化」や「人間のための使用」と一体をなしている、といった批判がすぐさま思い起こされる。こうした批判を浴びることが予想されるなかで、今日なお人間の人間性について哲学的に思考すること、さらには「人間主義」（ヒューマニズム）という立場をあえて引き受けることにはいかなる意味があるのだろうか。

本発表は、このような問いをハイデガーと共に思考することを試みる。というのも、ハイデガーこそ、近代の人間主義を誰よりも厳しく批判しただけでなく、人間の人間性について従来とは異なる仕方で思考しようとした哲学者であるからだ。実際、ハイデガーは『ニーチェ』講義や「ヒューマニズムについて」（1947年）で、「理性的動物」や「外的世界を表象する主観」として人間を規定する形而上学的な人間理解が、理性や主観性についての存在論的な問いを看過していると批判する一方で、「ヒューマニズムに反対して思索がなされる理由は、ヒューマニズムが、人間の人間性（*humanitas*）を、十分に高く評価していないからなのである」（「ヒューマニズムについて」）とまで述べている。つまり、ハイデガーは単純な反人間主義に与しているのではなく、形而上学的な人間主義の前提を問い直すことで人間の人間性をまったく新たな仕方で思考することを試みたのだ。このような試みは、二重の意味で革新的であったし、今日でもなお革新的であり続けている。第一に、それは存在者の特定の能力や属性によって人間を規定しようとする（逆にそのような能力・属性をもたない存在者を人間という集団から排除する）類の人間主義から手を切っている——このこと自体は、ハイデガーの批判対象であったサルトルのヒューマニズムにもすでに見てとられる。第二に、サルトルもまた暗黙の前提としていた、人間を能動的な行為主体とみなす人間理解から出発することを拒んでいる。ところが、ハイデガーの思考の抽象度の高さゆえに、以上のようなハイデガーの新たな試みが、人間についてのいかなる描像に至り、人間をめぐる倫理的な議論等にはいかなる具体的な展望をもたらすのかについては、それほど明瞭にはなっていない。本発表は、「ヒューマニズムについて」をはじめとするハイデガーの諸論考の読解や、主としてフランスにおけるハイデガー的思考の継承者（cf. D. Janicaud, *L'homme va-t-il dépasser l'humain ?*, 2002; F. Dastur, *La mort. Essai sur la finitude*, 2007）の解釈を通じて、人間性をめぐるハイデガーの思考に具体的な肉づけを与えることを試みる。これ

が本発表の第一の課題となる。

第二の課題は、このようにして取り出されたハイデガーの人間性についての思考を、レヴィナスのそれと比較することで批判的に考察し直すことである。一方で、レヴィナスは、先述したハイデガーにおける形而上学的な人間主義への批判と人間性の再考を最大限評価し、「人間主義は、それが十分に人間的でないという理由においてのみ、告発されねばならない」（『存在するとは別の仕方です』）と述べている。他方彼は、主として『他なる人間の人間主義』（1972年）に収録されることになる諸論考において、ハイデガーの人間性についての思考との全面的対決を試みる。そこで争点となるのは、理性（ロゴス）と主体性についてのハイデガーの理解である。レヴィナスは、形而上学的な人間主義において問題となった理性と主体性という二つの概念を、存在との係わりにおいて捉え直すハイデガーとは異なる形で再考することで、非存在論的な「他なる人間の人間主義」——存在者の能力や属性から人間を規定することを拒みつつ、社会においてなされている他人との係わりから「人間性」をある意味では「構築」することを目指す思考——を提起する。本発表は、論考「人間主義と無起源」（1968年）等の検討を通じて、人間性をめぐるレヴィナスによるハイデガーとの対決を再構成し、レヴィナスの人間主義がいかなる点で形而上学的人間主義と異なるのかに応え、この新たな人間主義の哲学的意義を具体的に解明することを目指す。最終的には、ハイデガーとレヴィナスにおける「形而上学」の意味の相違と、両者における「人間主義」と「形而上学」との関係が問題となることだろう。

（以上 1999 文字）